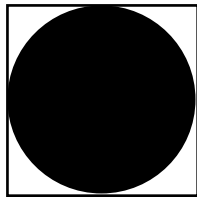


InSEA



公益社団法人 日本美術教育連合 ニュース

No. 147

2016. 6

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-30-14 文京ビル 206 号

公益社団法人 日本美術教育連合

発行人 理事長 大坪圭輔

ニュース担当 北川智久

E-mail: kitagawa@elementary-s.tsukuba.ac.jp

理事長就任のご挨拶

理事長 大坪圭輔

此の度、私、大坪圭輔は、本年4月24日に開催されました定時総会及び第1回理事会におきまして、第7、8期（平成28年度、29年度）の公益社団法人日本美術教育連合理事長（代表理事）に選出されました。会員の皆様には、この紙面を以て就任のご挨拶をさせていただきますとともに、ご指導ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。前任の宮坂元裕前理事長には、公益法人法の改定に伴い、社団法人日本美術教育連合を公益社団法人として登録すべしとのご英断を頂き、平成23年3月3日に内閣総理大臣菅直人名によって、本連合が公益社団法人として認定されるまでの膨大な業務をご担当頂きました。まさしく本連合の中興の祖として、宮坂前理事長のご尽力に深甚より感謝申し上げる次第です。それに比して、これからの連合の在り方を考えるとき、私の力量では心もとない限りではありますが、会員の皆様の総意に基づき、公益社団法人として、造形美術教育をもって社会に貢献する公益事業の展開と発展を目指す所存であります。

さて、新学習指導要領改訂も次第にその骨格が明らかになりつつあるとき、これからの10年における教育をとりまく環境の変化はこれまで以上に急激であり、これまで絶対であったものが決してそうではないことが示される不確定な様相を呈することは想像に難くありません。現在の議論の中でも、すでに学校教育がオーバーロード状態にあることが指摘されています。すなわち、社会の新たな課題に対応するために教育に対してさまざまな要望や課題が求められ、それらをひたすらに受け入れてきた学校は、すでに人的、時間的、経済的に限界にあるとの分析です。すなわち、学校で本来学ぶべきこと、学校の授業で育てるべき能力とは何なのか、教育の目的内容の精査が厳しく展開されることとなります。そして、今この時こそ、多くの学校種において、多様な教育実践や研究を展開される会員を擁する日本美術教育連合の真価が発揮されるべきと考えます。

第50回 日本美術教育研究発表会2016 案内

1. 日時 平成28年10月16日（日） 9時～17時30分（予定）
2. 会場 東京家政大学板橋キャンパス 16号館
〒173-8602 東京都板橋区加賀 1-18-1
3. 主催 公益社団法人 日本美術教育連合（InSEA-JAPAN）
4. 後援 文部科学省（申請中）

公益社団法人 日本美術教育連合主催講演会

これからの美術教育の在り方を考える

ー中央教育審議会教育課程企画特別部会の審議などからー

講師 三浦浩喜先生（福島大学理事・副学長）

日時：平成28年4月24日（日）15：00～

場所：聖心女子大学 400番教室

司会：水島尚喜

皆さんこんにちは。今日は、戦後最大の教育改革と言われる学習指導要領改訂に関わるバックグラウンドを中心に図画工作・美術のこれからについてお話ししたいと思います。

まず、学習指導要領改訂のバックグラウンドにつながるエピソードに少し触れます。東日本大震災後、私は学生たちと被災者支援ボランティアを行っていました。そんな中、OECD（経済協力開発機構）からの依頼により、「OECD東北スクール」をスタートすることになりました。

このプロジェクトの最終ゴールは、パリから東北の魅力を世界へアピールするイベントをつくることです。そのプロセスにおいて、参画した生徒（3県9地域の中高生）のどんな能力が育ったのか、ということを経営指標（Key Performance Indicator）評価によってかなり細かく分析しました。その結果、「チームワーク力」、「マネジメント力」、「問題解決力」、「巻き込み力」などすべての項目で成長が見られたのですが、ここから「異質との接触が子ども達を成長させる」ということが明らかになりました。

「OECD東北スクール」の目的のひとつは、東北への支援を通して、21世紀型のひとつの教育改革モデルをつくることでした。OECDがなぜ教育改革を目指したかという点、経済用語のVUCAがキーワードになっています。Volatility（不安定）、Uncertainty（不確実）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）として象徴的な近未来社会をいまの子ども達は生き抜いていかなければなりません。

今日の教育はデジタル革命に追いつけないような事態に置かれているのです。過去を振り返ると、教育制度の変化よりも社会の変化の方が常に早く、産業革命時に技術が飛躍的に伸びた一方、未だ教育は昔ながらの知識注入を行っていたというようなギャップがソーシャル・ペインを生んでいました。後にその反省を受けて教育の近代化が行われましたが、いまの教育はデジタル革命に追いつけないまま、再度ソーシャル・ペインを生んでいます。

OECDはこの現状を踏まえ、昨年から「Education2030」というプロジェクトを始めました。この目的は、不安定で変化の激しい社会で必要とされる能力は何なのか、そして、どのような教育によってそういった能力を保証することができるのかということを長期的に調査・研究していくことです。

この「Education2030」立ち上げに、「OECD東北スクール」が大きな役割を果たしました。これまでOECDはキー・コンピテンシーを使って人間の能力を定義していましたが、「OECD東北スクール」プロジェクトの過程で伸びた能力、あるいは必要だった能力は何かといった時、それはレジリエンスや根性など、いわゆる「人格特性」とであると分析することができます。これはキー・コンピテンシーには欠けていた要素で、今後どのように「人格特性」を教育指標に組み込んでいくかが重要になるということです。東北発の教育が、世界の教育指標に影響を与えました。

また、プロジェクトを形作るアートの観点から「OECD東北スクール」を振り返ると、写真・映像

の活用はもちろん、造形ワークショップを企画したり、イベントのデザインをしたり、プレゼンテーションをしたりと、アーティスティックなことが物凄く含まれていたと考えられます。つまり、「旧来の美術教育」から自由になったとき、そこには膨大な「学習内容」が横たわっているのです。

次期学習指導要領は、OECD教育局の問題提起が大きく影響しています。例えばICT教育の本格的導入や、教科主義からの脱却を図っています。そのため、「学校文化」つまり学校特有の考え方に関して新たに論点になったり「教科縦割り」が批判的に議論されたりしています。

同時にカリキュラム・オーバーロードの問題も出てきています。例えば美術教育では、CGやアート・マネジメントなどが新たに付加されると、限られた時間と空間の中では全体的に内容が薄くなるしかなく、ディープ・ラーニング（本質的な学び）から離れてしまいます。従って、そもそも「教科縦割り」というのは正しい教育のあり方なのかをしっかりと考えなければなりません。

それから、今後はエビデンスに基づく教育改革が必ず必要になってきます。芸術教育は他のスキルと合わさったときに非常に大きな力を発揮するといった肯定的な考え方が主流である一方、数値的な根拠が全くないのです。そういう意味で、美術教育は今後どういった数値を設定し、それをどのように測ることで最大の効果を得ることができるのかを、美術教育者と実践者とで戦略的につくっていく必要が絶対にあります。

これからの美術教育の在り方を構想するとき、教科と学校文化などをつなぎ合わせることで、美術教育の更なる意味、存在意義を主張することができるとでしょう。別のもの同士を統合することによって新たなものを生み出す“arts”に対応した教育実践、教育研究を私たちがつくっていかなければなりませんし、もっと学校教育全体の中で美術教育を見ていくべきだと思います。

原点に戻りますが、美術の力を学校の中に示し、それによって子ども達、先生方、親からの信頼を回復させることが急務であると考えられます。それは決して美術の独りよがりであってはいけません。近代の公教育において、芸術を否定している国はありませんから、それに応えられるような研究や実践がこれから期待されます。

次期学習指導要領は、これまでの蓄積を踏まえたというよりも、これから迎えるであろう非常に複雑で困難な社会で生きる子ども達のためにあると言えます。私たちの経験に根ざした教育では間違いなくこれからの社会に対応できず、子ども達は生きていきません。私たちは、スローガンだけでなく「未来を切り拓く美術教育」を子ども達と一緒に考えていく必要があるのです。

（記録 直井 崇 畑山未央、文責 西村德行）



平成 27 年度 事 業 報 告

平成27年

- 4月19日（日） 第5回 定時総会
同日開催 講演「図画工作、美術のこれからを考える」
講師 文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 岡田京子先生
会場 聖心女子大学
- 5月17日（日） 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅳ期〉」準備会 開催
- 6月15日（月） 日本美術教育連合ニュース No.144 発行
- 6月28日（日） 第1回 理事会・運営委員会
会場 東京家政大学
- 8月24日（月） 造形・美術教育力養成講座〈第Ⅲ期〉開催
・25日（火） 会場 武蔵野美術大新宿サテライト
- 8月30日（日） 第2回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
会場 東京家政大学
- 9月15日（火） 日本美術教育連合ニュース No.145 発行
- 10月18日（日） 第49回 日本美術教育研究発表会 開催（38組の発表があった）
会場 東京家政大学
- 11月22日（日） 第3回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会 開催
会場 東京家政大学
- 12月6日（日） 第4回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会 開催
論文査読（日本美術教育研究論集 掲載論文決定）
会場 東京家政大学

平成28年

- 1月10日（日） 次期役員選挙 開票 公益社団法人日本美術教育連合本郷事務所
- 1月24日（日） 第5回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会 開催
会場 武蔵野美術大 新宿サテライト
- 2月15日（月） 日本美術教育連合ニュース No.146 発行
- 3月13日（日） 第6回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会 開催
会場 東京家政大学
- 3月31日（木） 日本美術教育研究論集2016 No.49 発行
- 4月9日（土） 会計監査 北澤俊之監事による会計監査 実施
会場 文京区本郷 公益社団法人日本美術教育連合事務所
- 4月24日（日） 第6回 定時総会 開催
会場 聖心女子大学

(1) 貸 借 対 照 表

平成28年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	1,025,594	967,973	57,621
流動資産合計	1,025,594	967,973	57,621
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	2,600,000	2,600,000	0
図書	2,500,000	2,500,000	0
基本財産合計	5,100,000	5,100,000	0
(2) 特定資産			
新事業準備預金	30,103	28,930	1,173
特定資産合計	30,103	28,930	1,173
(3) その他固定資産			
敷金	60,000	60,000	0
その他固定資産合計	60,000	60,000	0
固定資産合計	5,190,103	5,188,930	1,173
資産合計	6,215,697	6,156,903	58,794
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	856,344	824,218	32,126
借入金	650,000	650,000	0
前受金	96,000	66,000	30,000
預り金	27,567	0	27,567
流動負債合計	1,629,911	1,540,218	89,693
負債合計	1,629,911	1,540,218	89,693
III 正味財産の部			
1. 一般正味財産	4,585,786	4,616,685	△ 30,899
(うち特定資産への充当額)	(30,103)	(28,930)	(1,173)
正味財産合計	4,585,786	4,616,685	△ 30,899
負債及び正味財産合計	6,215,697	6,156,903	58,794

(2) 正味財産増減計算書

平成27年4月1日から平成28年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益			
基本財産受取利息	1,169	1,299	△ 130
特定資産運用益			
特定資産受取利息	4	5	△ 1
受取入会金			
受取入会金	57,000	48,000	9,000
受取会費			
受取正会員会費	930,000	829,000	101,000
受取賛助会員会費	95,000	165,000	△ 70,000
事業収益			
論集広告料	160,000	164,600	△ 4,600
論集掲載料	657,500	547,000	110,500
受取補助金等			
受取寄付金	188,000	60,000	128,000
受取利息	25	76	△ 51
雑収益	61,000	82,000	△ 21,000
経常収益計	2,149,698	1,896,980	252,718
(2) 経常費用			
事業費			
業務委託費	0	10,000	△ 10,000
消耗品費	0	1,863	△ 1,863
印刷製本費	1,018,961	1,068,760	△ 49,799
通信運搬費	128,624	161,747	△ 33,123
諸謝金	0	217,000	△ 217,000
Insea世界大会諸謝金	0	0	0
会議費	18,057	42,137	△ 24,080
雑費	2,402	3,402	△ 1,000
管理費			
福利厚生費	0	16,200	△ 16,200
会議費	193,742	207,346	△ 13,604
旅費交通費	7,190	1,230	5,960
通信運搬費	58,384	15,126	43,258
地代家賃	452,600	325,000	127,600
消耗品費	3,905	4,406	△ 501
計算書類作成費	291,600	270,000	21,600
雑費	5,132	5,682	△ 550
経常費用計	2,180,597	2,349,899	△ 169,302
当期経常増減額	-30,899	-452,919	422,020
当期一般正味財産増減額	-30,899	-452,919	422,020
一般正味財産期首残高	4,616,685	5,069,604	△ 452,919
一般正味財産期末残高	4,585,786	4,616,685	△ 30,899
II 正味財産期末残高	4,585,786	4,616,685	△ 30,899

(3) 財務諸表に対する注記

1. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
図書	2,500,000	0	0	2,500,000
小計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産				
新事業準備預金	28,930	1,173	0	30,103
小計	28,930	1,173	0	30,103
合 計	5,128,930	1,173	0	5,130,103

2. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基本財産				
定期預金	2,600,000	0	2,600,000	0
図書	2,500,000	0	2,500,000	0
小計	5,100,000	0	5,100,000	0
特定資産				
新事業準備預金	30,103	0	30,103	0
小計	30,103	0	30,103	0
合 計	5,130,103	0	5,130,103	0

(4) 附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

(単位:円)

区分	資産の種類	期首帳簿価額	当期増加額	当期減少額	期末帳簿価額
基本財産					
	定期預金	2,600,000	0	0	2,600,000
	図書	2,500,000	0	0	2,500,000
	基本財産計	5,100,000	0	0	5,100,000
特定資産					
	新事業準備預金	28,930	1,173	0	30,103
	特定資産計	28,930	1,173	0	30,103

(5) 財 産 目 録

平成28年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物置等	使用目的等	金 額
(流動資産)	現金預金			
	現金	手元保管	運転資金として	44,200
	通常預金	ゆうちょ銀行	運転資金として	131,126
	振替貯金	ゆうちょ銀行	運転資金として	850,268
流動資産合計				1,025,594
(固定資産)	基本財産			
	定期預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運用益を公益目的事業及び法人会計に使用する。	2,600,000
	図書	山形文庫 2,003冊 筑波大学芸術学系保管	調査研究の資料として活用している。	2,500,000
	特定資産			
	新事業準備預金	三菱UFJ信託銀行上野支店	運用益を法人会計の収入に活用する。	30,103
	その他固定資産			
	敷金	文京区本郷2-30-14	事務所敷金	60,000
固定資産合計				5,190,103
資産合計				6,215,697
(流動負債)	未払金	上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第49号 印刷代	720,360
		上武印刷㈱	日本美術教育研究論集第49号 郵送料	21,137
		上武印刷㈱	日本美術教育研究発表会第49号概要集 印刷代	44,280
		上武印刷㈱	連合ニュース145号 印刷代	50,297
		上武印刷㈱	連合ニュース145号 郵送料	20,270
	未払金 計			856,344
	借入金	宮坂元裕	運転資金	600,000
		結城孝雄	運転資金	50,000
	借入金 計			650,000
	前受金		平成28年度受取正会員会費8件	48,000
			平成29年度受取正会員会費2件	12,000
			平成30年度受取正会員会費2件	12,000
			平成31年度受取正会員会費2件	12,000
			平成32年度受取正会員会費1件	6,000
			平成33年度受取正会員会費1件	6,000
	前受金 計			96,000
	預り金	本郷税務署	小林公認会計士事務所決算報酬 源泉所得税	27,567
流動負債合計				1,629,911
負債合計				1,629,911
正味財産				4,585,786

会計監査報告書

平成27年度（平成27年4月1日～平成28年3月31日）の事業報告並びに収支計算書につき監査の結果、予算執行、経理事務処理等が適正であることを認めます。

平成28年4月9日

公益社団法人 日本美術教育連合

監事 上 澤 保 之 

社員 結城 孝雄 

第7期 活 動 方 針

定款第3条に定める本法人の目的達成を目途として、第7期においては次の事項を活動の基本方針とする。

1. 活動を円滑に行うに必要な収支の安定、拡大を検討する。
2. 学習指導要領改訂期にあることなどを考慮し、会員をはじめとして社会にとってより有益な情報の発信を強化する。
3. 「美術教育連絡協議会」の参加団体と共同し、図画工作科・美術科における学習の重要性を社会に向けて主張する。
4. 美術教育関係諸団体との情報交換、協調、協力関係を強化する。
5. 日本美術教育研究発表会の拡充、『日本美術教育研究論集』編集の充実を進める。
6. 造形・美術教育力養成講座の拡充を進める。
7. InSEAにおける日本の代表としての歴史を踏まえ、海外美術教育関係者及び団体との関係を強化する。

平成 28 年度 事 業 予 定

平成28年

- 4月24日（日） 第6回 定時総会及び講演会 開催
会場 聖心女子大学400番教室
講演 「これからの美術教育の在り方を考える－
中央教育審議会教育課程企画特別部会の審議などから－」
講師 三浦浩喜 先生
福島大学理事・副学長
中央教育審議会教育課程企画特別部会委員
- 第1回 理事会（役員選出）
会場 聖心女子大学
- 5月28日（土） 事業局主催「造形・美術教育力養成講座〈第Ⅴ期〉」準備会
- 6月 日本美術教育連合ニュース No.147 発行
- 6月19日（日） 第2回 理事会・運営委員会
会場 東京家政大学
- 8月22日（月） 造形・美術教育力養成講座〈第Ⅴ期〉開催
～23日（火）
- 8月28日（日） 第3回 理事会・運営委員会及び論集編集委員会
会場 東京家政大学
- 9月 日本美術教育連合ニュース No.148 発行
- 10月16日（日） 第50回 日本美術教育研究発表会 開催
会計監査（前期） 北澤俊之監事、宮坂元裕監事
- 11月20日（日） 第4回 理事会・運営委員会及び論集編集委員会
- 12月4日（日） 第5回 理事会・運営委員会及び論集編集委員会
造形・美術教育フォーラム 開催

平成29年

- 1月22日（日） 第6回 理事会・運営委員会及び論集編集委員会
- 2月 日本美術教育連合ニュース No.149 発行
- 3月5日（日） 第7回 理事会・運営委員会 及び論集編集委員会
- 3月31日（金） 日本美術教育研究論集2017 No.50 発行
- 4月 会計監査（後期） 北澤俊之監事、宮坂元裕監事

-
- 4月 第7回 定時総会及び講演会

収 支 予 算 書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,000	4,000	0
基本財産受取利息	4,000	4,000	0
受取入会金	30,000	30,000	0
受取入会金	30,000	30,000	0
受取会費	1,290,000	1,290,000	0
受取正会員会費	1,140,000	1,140,000	0
受取賛助会員会費	150,000	150,000	0
事業収益	500,000	500,000	0
受取論集広告料	200,000	200,000	0
受取論集掲載料	300,000	300,000	0
受取補助金等	301,000	301,000	0
受取寄付金	300,000	300,000	0
受取利息	1,000	1,000	0
経常収益計	2,125,000	2,125,000	0
(2) 経常費用			
事業費	1,022,000	1,022,000	0
雑給	0	0	0
消耗品費	2,000	2,000	0
印刷製本費	700,000	700,000	0
通信運搬費	200,000	200,000	0
諸謝金	100,000	100,000	0
資料費	5,000	5,000	0
会議費	15,000	15,000	0
管理費	972,000	1,147,000	△ 175,000
給料手当	0	0	0
会議費	200,000	204,000	△ 4,000
旅費交通費	10,000	10,000	0
通信運搬費	40,000	57,000	△ 17,000
賃借料費	442,000	592,000	△ 150,000
消耗品費	5,000	9,000	△ 4,000
印刷製本費	40,000	40,000	0
支払負担金	30,000	30,000	0
計算書類作成費	200,000	200,000	0
雑費	5,000	5,000	0
経常費用計	1,994,000	2,169,000	△ 175,000
当期経常増減額	131,000	-44,000	175,000
当期一般正味財産増減額	131,000	-44,000	175,000
一般正味財産期首残高	4,585,786	4,616,685	△ 30,899
一般正味財産期末残高	4,716,786	4,572,685	144,101
II 正味財産期末残高	4,716,786	4,572,685	144,101

■InSEA NEWS 6月号より

□第35回InSEA世界会議韓国大邱大会

2017年8月（7日～11日）に開催予定の世界会議が紹介されていますが、まだ一般の研究発表の募集などは示されていません。招待発表者へのインビテーションは送付されていますので、間もなくHPにて告知されるものと思われます。

□第6回世界芸術教育連盟世界会議及び第1回世界芸術教育会議の開催

ユネスコが協賛する世界芸術教育連盟（WAAE）の第6回世界会議と第1回世界芸術教育会議が、北京教育委員会、中国教育省等によって、北京市内を会場に「持続可能な発展のための芸術教育」をテーマに、2016年12月3日～6日に開催されます。大会日程の中には、北京市内の小学校を始め、各種学校の見学なども組み込まれています。現在、2016年7月15日まで、一般の研究発表を募集しています。詳細は下記アドレスまで。

<https://inseadvocacy.files.wordpress.com/2016/05/waae-in-china-update-invitation-letter-final5-20.pdf>

□InSEA役員改選について

2017年～2019年を任期とする、会長（1名）、副会長（2名）、世界6地域代表評議員（各地域3名）の役員改選が下記の日程で開催されます。また、投票等はWebによるものとなりますので、InSEA会員登録をされている方は、ご自身の登録番号、パスワード等に不備がないが事前にご確認をお願いします。

- | | |
|------------|-----------------------------|
| ・候補者申請 | 2016年6月30日 |
| ・候補者リストの公表 | 2016年8月 |
| ・投票 | 2016年10月 |
| ・結果発表 | 2016年11月 |
| ・新旧役員交代 | 2017年8月 第35回InSEA世界会議韓国大邱大会 |

□InSEA e-magazine (IMAG)

InSEA会員登録をすると、多くの写真とともに各地の実践等を紹介するInSEAE-magazine (IMAG) をpdfファイル形式で見ることができます。「Visual Essays」と称する多彩な写真で構成された記事はとて分かりやすく、各地の特徴的な実践が紹介されています。今回はIMAG No2.として、昨年12月に編集されたものがダウンロードできるようになっており、ラテンアメリカ地域特集となっています。

□InSEA会員登録

InSEA (International Society for Education through Art、国際美術教育学会) の会員登録は、芸術教育関係者であればどなたでも登録できます。個人会員会費は1年間で約4,500円、3年間で約12,500円です。InSEAのホームページ「<http://insea.org>」の「join us」をご覧ください。

事業局長 水島 尚喜

幼・小・中学校教員、美術館関係者、連合会員、画塾経営者、学生、保護者の皆様へ
公益社団法人日本美術教育連合主催 造形・美術教育力養成講座の御案内
第3期1次目

【海外美術教育ワークショップー明日の授業が変わるー】

－ご挨拶－

「日本美術教育連合」は内閣府の承認を得た造形・美術教育にかかわる唯一の公益社団法人です。公益事業として、連続講座を企画し、多くの方々から好評を博しています。今期は、「海外美術教育ワークショップ」をテーマとして、気鋭の講師陣が担当いたします。どうぞ、奮ってご参加ください。

(公益社団法人日本美術教育連合 理事長 大坪圭輔)

主旨：海外の造形活動への理解を深め、講義と演習を通して教育実践力を高める8回連続の講座を行います。すべての講座を満了し、一定の規定を満たした参加者には、公益社団法人日本美術教育連合からの「認定書」を授与します。

日程：平成28年8月22日（月）、8月23日（火）の2日間（90分×8回）

参加料金等：随時受付。参加ご希望の方は、以下サイトの参加申し込みフォームよりお申し込みください。尚、QRコードからのアクセスもできます。（日本美術教育連合HP掲載）

<https://docs.google.com/forms/d/1oVzycu1hmnNlmtMEoljroEngtxqCUc75HSfID7QIO-E/edit#responses>

参加費：一講座1,500円当日払い（日本美術教育連合会員・学生・院生は、1,000円）

会場：〒150-8938 東京都渋谷区広尾4-3-1 聖心女子大学2号館4階

ワークショップルーム／造形室

交通アクセス参照：<https://www.u-sacred-heart.ac.jp/access/>（聖心女子大学HP）



○申し込み用 QR コード

周辺案内図



- 東京メトロ日比谷線「広尾駅」
(2番「天現寺橋(聖心女子大学)方面」出口)下車
広尾商店街(散歩通り)を通り 約3分
- JR渋谷駅東口または恵比寿駅より都バス
「日赤医療センター前」行 終点「日赤医療センター前」下車 約3分
- JR品川駅より都バス「新宿駅西口」行
「広尾橋」下車 約4分
- JR目黒駅より都バス「千駄ヶ谷駅」、「新橋駅」行
「広尾橋」下車 約4分

公益社団法人日本美術教育連合主催
 <第3期>造形・美術教育力養成講座

海外美術教育ワークショップ -明日の授業が変わる-

	講 座 名 ・ 日 時	メモ
1	「アメリカにおける表現と鑑賞の往還からの授業づくり」 講師：小林貴史（東京造形大学 教授） 北澤俊之（東洋大学 准教授） ◆ 8月22日 月曜日（9:00～10:30）	
2	「フランス公立学校の美術の授業とInSEAヨーロッパの活動について」 講師：藤崎典子（元公立小・中学校 教諭） ◆ 8月22日 月曜日（10:50～12:20）	
3	「フィンランドにみる21世紀型美術教育の今」 講師：結城孝雄（東京家政大学 教授） 畑山未央（東京家政大学 助教） ◆ 8月22日 月曜日（13:30～15:00）	
4	「PISA型学力と図工美術工芸の題材開発」 講師：大坪圭輔（公益社団法人日本美術教育連合 理事長／ 武蔵野美術大学 教授） ◆ 8月22日 月曜日（15:20～16:50）	
5	「美術鑑賞教育内外事情 2005－2015 対話から探求」 講師：奥村高明（聖徳大学 児童学部長） ◆ 8月23日 火曜日（9:00～10:30）	
6	「マインドピクチャーから批評学習まで：英国の不思議な授業実践」 講師：直江俊雄（筑波大学芸術系 教授） ◆ 8月23日 火曜日（10:50～12:20）	
7	「スウェーデン・フィンランド・ロシアの著名美術館教育事情」 講師：山口喜雄（前宇都宮大学 教授） ◆ 8月23日 火曜日（13:30～15:00）	
8	「紙工作の教材開発 ―フレーベルの基本的な考え方に基いて― （演習）」 講師：仲瀬律久（聖徳大学 名誉教授） ◆ 8月23日 火曜日（15:20～16:50）	

●受講者氏名／所属等	
●住所	
● 連絡先電話番号 ● メールアドレス （内容変更時等の連絡用）	

* 申込はインターネットからです。このページはメモとしてご使用ください。

第50回記念 日本美術教育研究発表会 2016**【公益社団法人第6回 一次案内】**

公益社団法人 日本美術教育連合理事・研究局長 山口 喜雄

歴史的な1965年InSEA東京世界大会の精神を反映し、「国際理解と美術教育の前進」という趣旨で第1回日本美術教育研究発表会を1966年に開催、2012年に公益社団法人日本美術教育連合となって6年目の今年は記念すべき第50回を迎えます。児童教育・造形表現・服飾美術等の学科を擁し、造形表現や教員養成にも傾注している東京家政大学にて開催いたします。本発表会の特色は、美術教育の理論研究を軸に実践研究をも重視してきたことです。従前の口頭発表（発表20分＋協議5分）の他に、①モジュール口頭発表（発表30分＋協議25分）3コマ、②研究ノート、③発表会改善アンケート（今年度運営反省と次年度企画提案）、以上三つを継続実施いたします。これまでの研究発表者は、関東圏はじめ北海道・近畿・四国・九州など各地の小・中・高・特支・短大・大の教員、美術館学芸員、行政職、院生・学生、韓国・中国・メキシコの教員・留学生などで、多様な内容でした。美術教育に関する熱意ある方々の研究発表や参加をお待ちしています。

参 加 要 項

- 開催日時：2016（平成28）年10月16日（日） 9時～17時30分（予定）
- 会 場：東京家政大学16号館 〒173-8602東京都板橋区加賀1-18-1
経路の詳細は同大学HP（<http://www.tokyo-kasei.ac.jp/about/access/tabid/99/index.php>）を参照願います。
- 参加費等：参加費500円（概要集代として）、事前申込みは不要、会員以外の方でも参加できます。
『日本美術教育研究発表会2016概要集』をお渡しいたします。
- 主 催：公益社団法人 日本美術教育連合
- 後 援：文部科学省（申請中）

研究発表申込WEB入力期限 8/21（日）24：00

- 発表資格：共同発表者も含め、本会会員であること。入会には会員1名の推薦が必要です。
新規入会希望者は、「入会申込書」をURL、<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/bijutu/8.html>から印刷し、または本ニュースの申込書をコピーし本事務局長宛てにお送りください。
未加入の方は別途、入会申込書の事務局送付と入会金を納入して下さい。身近に会員がいない場合は、下記の問合せ先にご相談下さい。
- 発表時間：入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です。
〈通常口頭発表〉20分 質疑応答5分 移動・準備5分〔発表者総数により変更有〕
〈モジュール発表：3組募集〉30分＋質疑応答25分 移動・準備5分〔役員会で選定〕
- 発表区分：A群・B群・C群の3区分があり、研究発表申込WEBサイトにどれかを明記して下さい。
A群：理論・実践研究論文（査読あり、投稿時に英文の題目とサマリーが必要です）
B群：実践研究報告等（査読あり、題目のみ英文表記）
C群：研究ノート（同前）
- 発表方式：申込時に希望機器を明記して下さい。1）液晶プロジェクター（HD-D-Sub15ピン対応）、
2）実物投影機、3）機器を使用しない
配布用のレジュメまたは資料等は、50～70部程度ご用意下さい。
- 発表申込：申込WEBサイトへの入力期限厳守：2016年8月21日（日）24：00
WEBサイト名「第50回記念 日本美術教育研究発表会2016研究発表申込」
●<https://ssl.kokucheese.com/event/entry/403423/>サイトを開き、「＊」必須項目を記入します。
1）お名前 11）発表時使用機器（液晶プロジェクター・実物投影機・使用しない）
2）ふりがな 12）日本美術教育連合の会員資格の有無（会員、申込書を送付）
3）メールアドレス 13）論集掲載時の発表区分の予定（A群、B群、C群）
4）メールアドレス（確認） 14）モジュール発表希望（あり、枠に余裕あればあり、なし）
5）郵便番号 15）発表概要文600字以内の提出（送信済、8/21必着送信予定）
6）都道府県 16）発表題目／和英表記
7）住所 17）発表者全員の所属・氏名／氏名は和英表記（学生・院生は学校名・学年・専攻名なども）
8）ビル・マンション名 18）発表のキーワード3つ
9）TEL 19）メッセージ（特になし、記入は300字以内）
10）FAX
- 概 要 文：返信「お申し込みありがとうございます。下記の内容で受付いたしました。」が届きます。
E-mail送付先：nibuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp 山口喜雄宛【氏名・所属・題目・概要文600字】
E-mailの送信後10日後以内に受付確認の返信がない場合は、念のため再度送信して下さい。
郵送による概要文の受付や電話対応はできません。
E-mailの見出しに「●連合発表2016申込（申込氏名）」とお書き下さい。

備考・問合せ先

- 参照URL：<http://www.edu.gunma-u.ac.jp/bijutu/8.html>（役員・茂木一司作成／群馬大学）を参照。
- 発表時程：9月下旬発行の『連合ニュース148号』に掲載し、会員に送付する予定です。
- 問 合 先：研究局長・山口喜雄 E-mail nibuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

第50号 日本美術教育研究論集 2017

【投稿および掲載要項】

研究論集編集委員会

投 稿 要 項

- 投稿条件： 第50回日本美術教育研究発表会の研究発表者は、『第50号研究論集2017』に投稿できます。投稿論文の研究論集への掲載は、次の(1)～(5)の条件を全て満たしたものに限りします。
- (1) 投稿原稿が、研究発表会における発表内容と基本的に同じ内容であること。
 - (2) 投稿原稿が、研究論集の要項に適合していて、書式・分量等が守られていること。
 - (3) 掲載料を期日(2016年11月9日)までに納入していること。
 - (4) 作品の図版や写真・VIDEO映像等の著作物を利用する場合および写真等の肖像権は、投稿者が必ず事前に著作権者・出版社・所有者・本人もしくは保護者等の許諾を得ること。
 - (5) 引用文献には、脚注または本文中に発行所・出版年・該当頁等の出典を明記すること。
- 論文査読： A群(理論・実践研究論文)・B群(実践研究報告等)・C群(研究ノート)とともに複数の査読委員が査読を行い、編集委員会での審議を経て投稿原稿掲載の可否を決定します。掲載が決定した論文は、各主査がまとめて論評し、各論評を研究論集の〈論評の部〉に掲載します。
- 原稿書式： A群・B群・C群ともに、本文および図版(写真・表・図等)等、英文サマリー(A群のみ)を含め、下記の文字数を守って下さい。
- 1頁分は、A 4横組2段 23字×44行×2段=2024字です。
- 第1頁のみ第1行目から第5行目(2段取り)までに、題目(副題)・所属・氏名を記載し、本文との間に2行(2段取り)のスペースを空け、本文は、8行目から書き始めます。
- 共通の項立て・見出しを用い、以下の番号と見出し語のみとします。
- 大項目 1. 2. 3. [全角数字]…、中項目 (1) (2) (3) …、小項目 ①②③…。
- 掲載要項： A群・B群・C群ともに原則として8頁(C群のみ6頁も可)とし、掲載料は一般(給与を得ている内地留学生等を含む)15,000円、院生・学生8,000円です。
- 2頁増ごとに6,000円を加算し、10頁では一般21,000円、院生・学生14,000円です。
- 増頁の上限は12頁で、一般27,000円、院生・学生20,000円です。
- 原稿は、①ワープロ等で印字し、②テキスト形式で保存したCD-R等を合わせて提出すること。CD-R等の未提出の場合は、一般・学生とも加工料込み30,000円です。
- カラーページは1頁につき12,500円を加算します。
- 抜き刷り(一律50部)は、8頁モノクロで7,000円です。2頁増ごとに2,000円を加算します。(抜き刷りのカラーページは、1頁ごとに2,000円を加算します。)
- 掲載料は投函以前に納入し、送金の証明書(利用明細書のコピー等)を同封して下さい。
- 口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入) 郵便振込です。
- 加入者名： 社団法人日本美術教育連合
- ご依頼人： (〒)おところ・おなまえ・電話番号・所属
- 通 信 欄： 例 掲載料15,000円(一般、8頁) + 増頁分6,000円(2頁増の場合) = 21,000円(計10頁)
- 抜き刷りを希望の場合は、その旨明記し、必要な金額を加算してください。
- ※査読の結果、掲載に至らない場合は10,000円(院生・学生は5,000円)のみ返金となります。抜き刷りの料金については、全額返金します。

〈投稿原稿〉11/9(水)必着

- 投稿〆切： 2016(平成28)年11月9日(水)必着。A群・B群・C群とも、①正1部と副4部(コピー可)計5部、②原稿CD-R等、③送金証明書を提出して下さい。投稿原稿は、完全原稿とし、締め切り期日以降の差し替え・変更は認めません。ただし、研究論集編集委員会が修正を求めるときは、この限りではありません。なお、発行日は2017(平成29)年3月31日を予定しています。
- 送付先： 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 児童教育学科 結城孝雄 宛

連絡・問合先

- 詳細連絡： 研究発表会当日に詳細を連絡します。口頭発表者は時程と場所を二次案内で確認して下さい。
- 問合先： 研究論集編集委員長 小林貴史：042-637-8111(代) ktakashi@zokei.ac.jp(東京造形大学)

公益社団法人 日本美術教育連合 入会申込書 (学生・一般)

○で囲んで下さい

公益社団法人 日本美術教育連合
理事長 大坪圭輔様

日本美術教育連合への入会を申し込みます。

平成 年 月 日

ふりがな

氏名

印

■ 現住所 〒

電話・FAX (自宅) または携帯

■ 勤務先・職名

〔学生は学校名・学年(専攻名)〕

所在地 〒

電話・FAX (勤務先)

■ Eメール

■ 帰省先 (※ 夏・年末・春等に帰省される方は帰省先の住所・電話：現住所が同一の場合は以下空欄)
住所 〒

電話・FAX (帰省先)

上記の方を会員として推薦いたします。

平成 年 月 日

会員氏名

印

※送付先・問い合わせ先 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1 東京学芸大学
芸術・スポーツ科学系 美術・書道講座 美術科教育学分野
公益社団法人 日本美術教育連合事務局長 西村 德行 宛
TEL+FAX 042-329-7608 (西村研究室直通)

E-mail: nishimur@u-gakugei.ac.jp

※送付と同時に以下の要領で入会金と年会費の「郵便振込」をお願いいたします。

口座記号番号：00170-1- 86036 (右寄せで記入)

加入者名：公益社団法人日本美術教育連合

通信欄：入会金 3,000 円 (入会時のみ) + 平成 28 年度会費 6,000 円 = 9,000 円

ご依頼人：おところ (〒)・おなまえ (電話)

※上記の個人情報は、本連合研究発表会・概要集・論文等関連以外に使用いたしません。

第50回記念 日本美術教育研究発表会2016 研究発表申込方法

申込方法を新システムに改めます。昨年度は発表申込先のアドレス誤記、申込者一覧への一部未記載があったため、研究局運営委員会で対策を講じた結果です。

まずWEB上の <https://ssl.kokucheese.com/event/entry/403423/>「第50回記念 日本美術教育研究発表会2016研究発表申込」サイトをクリックすると、次の画面が示されます。

「*」は必須項目です。下記の項目順に、*お名前、*ふりがな、*メールアドレス、*メールアドレス(確認)、*郵便番号、*都道府県……等々を記入します。

第50回記念 日本美術教育研究発表会2016 研究発表会申込

概要 お申し込み

お申し込み

「第50回記念 日本美術教育研究発表会」 研究発表申込

必要事項をご記入の上、「確認」ボタンをクリックしてください。

*は必須項目です。

* お名前

* ふりがな

* メールアドレス

* メールアドレス(確認)

* 郵便番号

(ハイフンなしの7桁で入力してください。例: 5530001)

* 都道府県

* 住所

お知らせ

【 一 次 案 内 】

■歴史的な1965年InSEA東京世界大会の精神を反映し、「国際理解と美術教育の前進」という趣旨で第1回日本美術教育研究発表会を1966年に開催、2012年に公益社団法人日本美術教育連合となって6年目の今年は記念すべき第50回を迎えます。児童教育・造形表現・服飾美術等の学科を擁し、造形表現や教員養成にも傾注している東京家政大学にて開催いたします。

■本発表会の特色は、美術教育の理論研究を軸に実践研究をも重視してきたことです。従前の口頭発表(発表20分+協議5分)の他に、①モジュール口頭発表(発表30分+協議25分)3コマ、②研究ノート、③発表会改善アンケート(今年度運営反省と次年度企画提案)、以上三つを継続実施いたします。

■これまでの研究発表者は、関東圏はじめ北海道・近畿・四国・九州など各地の小・中・高・特支・短大・大の教員、美術館学芸員、行政職、院生・学生、韓国・中国・メキシコの教員・留学生などで、多様な内容でした。美術教育に関する熱意ある方々の研究発表や参加をお待ちしています。

お問い合わせ先

第50回記念 日本美術教育研究発表会2016 研究発表会申込事務局
nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp

さらに上記の都道府県の次は、*住所(市区町村、丁目、番地、ビル・マンション名)、*TEL、FAX、*発表時使用機器(1. 液晶プロジェクター:HD-D-sub15ピン対応、2. 実物投影機 3. 機器を使用しない)、*日本美術教育連合の会員資格の有無(会員、入会申込書を事務局西村に送る/入会時に、入会金3,000円および本年度会費6,000円の郵便振り込みが必要です)、*論集掲載時の発表区分の予定(A群、B群、C群)、*モジュール発表希望(あり・枠に余裕があればあり、なし/役員会審査で3組選定します)、*発表概要文600字以内の提出(メール送信済み、8/21必着で送信予定/nobuoya@cc.utsunomiya-u.ac.jp山口喜雄宛に送信して申込が完了です)、発表題目/和英表記(システム既設定のため300字以内とありますが、長文はお控え願います。長文の副題は一覧表に記せない場合があります)、*メッセージ(特になし、あれば300文字以内で)、*発表者全員の所属・氏名/氏名は和英表記(学生・現職派遣含む院生は学校名・学年・専攻名なども)、発表のキーワード3つ(システム既設定のため300字以内とありますが、キーワード=単語を3つのみ記載)、*メッセージ(特になし、あれば300文字以内で)を記入します。

以上の必須項目すべてを記入し、「確認」ボタンをクリックしてください。

返信「お申し込みありがとうございます。下記の内容で受付いたしました。」が届きます。

※上記の個人情報は、本研究発表会・概要集・論文等関連以外に使用いたしません。

- 19 -

新役員改選結果報告

公益社団法人 日本美術教育連合 新役員が決まりました。

（任期：平成28年4月25日～平成30年4月定時総会）

理事長（代表理事） 大 坪 圭 輔

理 事 西 村 徳 行
 水 島 尚 喜
 山 口 喜 雄
 結 城 孝 雄

監 事 北 澤 俊 之
 宮 坂 元 裕

運営委員 研究局 山 口 喜 雄（理事）
 天 形 健 小 林 貴 史
 新 関 伸 也 山 田 一 美

事業局 水 島 尚 喜（理事）
 榎 原 弘二郎 橋 本 光 明
 藤 崎 典 子 奥 村 高 明
 三 澤 一 実

国際局 大 坪 圭 輔（代表理事）
 仲 瀬 律 久 長 田 謙 一
 福 本 謹 一 茂 木 一 司
 直 江 俊 雄 （局員）佐 藤 真 帆

事務局 結 城 孝 雄（理事）
 西 村 徳 行（理事） 林 耕 史
 北 川 智 久 （局員）畑 山 未 央

【訃 報】

林健造先生ご逝去

公益社団法人日本美術教育連合の前身である日本美術教育連合において、大変功績があった、林健造先生が去る平成28年2月12日ご逝去されました。享年98歳と11か月。

林先生は大正6年（1917年）仙台でお生まれになり宮城師範学校卒業。4年間小学校勤務の後、東京高等師範学校芸能科に入学。卒業と同時に金澤師範学校兼金沢大学で教職に就かれました。戦後の混乱があり、昭和29年お茶の水女子大に移り昭和32年同大学附属小学校教官となりました。在任中、文部省学習指導要領作成協力者などを歴任。昭和41年十文字学園女子短期大学教授に就任。以後幼児教育の専門家としてご活躍なさいました。お茶の水女子大学附属小学校は、日本美術教育連合初代理事長、山形寛先生のお勤めになったところで、林先生は後任であったため、本連合でも若い時からご活躍になり国際会議にもご参加されました。林先生のお人柄は明朗快活で座談、講演の名手でありました。常々、「私の話の師匠は、湯川尚文と小林秀雄と古今亭志ん生だ」と申しておりました。小林秀雄の話し方にとってもよく似ていました。理論面では造形教育三系論を提唱し、そのお考えのもとに編集された小学校図画工作教科書は空前絶後の年間8,710,000冊の売り上げを誇りました。著書や講演によって私たちに多大な影響を与え日本の美術教育界をけん引された林健造先生に感謝するとともに、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（宮坂元裕）

安東恭一郎先生ご逝去

公益社団法人日本美術教育連合会員として発展が期待されていた香川大学の安東恭一郎先生が平成28年2月16日にご逝去されました。享年57歳。昭和33（1958）年生まれの鳥取県ご出身で、大阪教育大学大学院修了、鳥取大学附属中学校教諭を経て香川大学教授となり、本連合や大学美術教育学会国際交流委員長や日本デジタル教科書学会他で活躍されました。基本的視座は美術教育の現象学からの捉えで、デジタルやバーチャルを含むSTEAM教育（科学教育と芸術教育との融合）に着目、日本美術教育研究論集2016_No.49に「デジタルコンテンツを活用した自律的・協働的鑑賞活動（Ⅰ）・（Ⅱ）」を畑山未央氏と執筆されました。平成25～27年度科研費基盤研究B「美術デジタル教科書の利活用における現状と課題：課題番号25285248」の研究代表者として分担者（本連合の天形健・福本謹一・村上尚徳各氏と結城・山口）と研究を推進され、韓国での多数の研究発表、英国調査やフレネ教育国際会議イタリア大会研究発表、大日本印刷と共同で体験型協働学習システムを開発し豊島区立小や新潟市立中で実証授業を先導されて近未来の美術教育像を模索されている最中でした。安東先生のご活躍を偲び、衷心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（結城孝雄・山口喜雄）

事務局便り

■平成27年度 ご寄附の御礼

昨年度、会員及び賛助会員の皆様にご寄附のお願いをいたしましたところ、計188,000円もの多分なご芳志を頂戴いたしました。この場をおかりして御礼申し上げます。

【ご芳名】(50音順／敬称略)

遠藤 信也・開隆堂出版(株)・(公財)教育美術振興会・小林 昭子・(株)サクラクレパス・新日本造形(株)・鈴木佐知子・直江 俊雄・仲瀬 律久・(公財)日本習字学会・日本文教出版(株)・美術出版サービスセンター(株)・堀 典子・水島 尚喜

■平成27年度 会員の異動 (敬称略)

平成27年度退会者

藤江 充

平成27年度入会者

阿部 美里・阿部 祐子・井口 眞美・大杉 健・黒田 潤子・齋江 貴志
竹内 晋平・辻本 由比・畑山 未央・春本あいこ・日比 歩・藤田 百合
松永 美里・三村 彩子・山村 宏昌

■平成28年度 (2016年度) 会費納入のお願い

本年度会費納入のお願い

平成28年度会費 6,000円 を 納入してください。

(公社)日本美術教育連合 郵便振替 00170-1-86036
納入期限 2016 (平成28) 年 8月26日 (金)

* 同封の振り込み用紙をご利用ください。(手数料はご負担ください。)

お名前を記載した振込用紙に、納入済みの方は○、未納の方はーが印字されています。
ご確認ください。

* 会員の皆様からの納入状況は決してよくありません。今一度、会員の意識にたち、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

* インターネットバンキングでもお支払いいただけます。その際、お名前や会費年度等、ご記入
いただきますよう、宜しく願いいたします。

▲ 3年以上の会費未納の皆様へ

* 平成27年度から、過去3年以上、会費未納の方につきましては、今回ご入金いただけない場合、「除名」という対応をとらざるを得ません。納入にご協力ください。

* 納入期限：平成28年8月26日 (金)

今回の納入のお願いと行き違いで納入済みの方には、失礼をお許してください。

■お問い合わせ先：事務局 西村 徳行

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学
芸術・スポーツ科学系 美術・書道講座 美術科教育学分野
TEL+FAX 042-329-7608 (西村研究室直通)
E-mail nishimur@u-gakugei.ac.jp